

青梅市の公の施設指定管理者評価シート

令和3 年度実施分

| | | | |
|--------|--------------------|-----|-------|
| 施設名 | 青梅市図書館(中央1館・分館9館) | | |
| 指定管理者名 | TRC・オーエンス青梅グループ | | |
| 指定管理期間 | 令和3年4月1日～令和8年3月31日 | 担当課 | 社会教育課 |
| 設置目的 | 青梅市図書館を運営するため | | |

| 評価ランク | 評価内容 |
|-------|--------------------------------------|
| S | 協定等を遵守し、仕様よりも優れた管理であった。 |
| A | 協定等を遵守し、仕様に沿った管理であった。 |
| B | 協定等を遵守し、おおむね仕様に沿った管理であったが、一部に課題があった。 |
| C | 協定等を遵守できず、仕様に沿った管理ができなかった。 |

| 評価項目 | 評価内容 | 評価方法 | 指定管理者評価 | 評価理由 | 市評価 | 評価理由 | |
|------------|---|---|---|-------------------------------|---|---|---|
| 管理状況 | 適性な管理の履行 | 協定や事業計画に沿った管理が適切に履行されているか。 ・業務の履行(清掃・巡回の回数など)は適切か ・人員配置は適切か。 ・協定や事業計画どりの管理となっているか など | ・協定書 ・年度協定書 ・職員配置表 ・連絡調整会議資料 ・事業報告書 | A | 提出期限までに年度の事業計画書を作成し、適切に実施した。人員配置については、協定書に記載の司書率を厳守し、中央も分館も適切に配置している。令和3年度は休館期間は2週間に留まり、一部事業を除き事業計画に沿った運営を実施した。 | A | 施設については、日常・定期清掃により清潔な状態に保っている。人員配置は、協定等により定められた方法で予定と結果が報告され、司書率も協定等のとおりになっている。 |
| | 事業報告 | 定められた期間での報告および連絡が指定管理者からされているか。 | ・職員配置表 ・連絡調整会議資料 ・事業報告書 | A | 期限が決められている資料については、遅滞なく適切に提出している。 | A | 定められた期間での報告および連絡がされている。 |
| | 安全性の確保 | 管理区域内の安全性については十分に確保されているか。 ・施設の安全性は確保されているか ・協定や事業計画どりの管理となっているか など | ・協定書 ・年度協定書 ・連絡調整会議資料 ・ヒアリング | A | 管理区域内の安全性には常に留意し、スタッフの巡回等で不具合が発見された場合は担当者への報告を速やかにし、修繕等を実施している。 | A | 管理区域内の通路等の整理がされており安全が確保がされている。 |
| | 法令等の遵守 | 個人情報保護のための体制、書類および情報の整理および保管等は適正であるか。 ・市への報告は適時、適切にされているか など | ・ヒアリング | A | 個人情報保護については、常に留意し、スタッフに対しては毎年必須の研修を実施している。市への報告も随時適切に行っている。 | A | 個人情報のある書類や情報を厳重に管理し、職員研修を実施するなど個人情報保護対策が徹底されている。委員会への報告も適切になされている。 |
| | 業務記録 | 業務等の記録は、適正に作成、整理および保管がされているか。 | ・ヒアリング | A | 業務日報や各種報告書は適正に作成し、年度別に保管している。 | A | 日報や業務に関する記録は施設できるキャビネット内に整理し保存している。 |
| | 緊急時対応 | 災害時等の緊急時の体制は整っているか。 | ・危機管理マニュアル | A | 危機管理マニュアル2022年版に則り、緊急連絡体制の連絡網を作成している。 | A | 緊急時の体制を確立し、対応マニュアル整備し、提出している。 |
| | | 災害時等の緊急時の対応研修、訓練等を行っているか。 | ・危機管理マニュアル ・連絡調整会議資料 | A | 年2回消防訓練等を実施し、緊急時に備えた体制を整えている。 | A | 防災訓練(年2回)を実施している。 |
| 適切な財務・財産管理 | 適切な財務運営・財産管理が行われているか ・建物や器具の破損、物品の紛失等はあるか など | ・連絡調整会議資料 ・事業報告書 ・ヒアリング | A | 備品を適切に管理し、建物や扉の故障には迅速に修繕に努めた。 | A | 備品等の破損は見られない。大規模な修繕に伴う空調故障についても、必要な報告がなされている。軽微な修繕に対し仕様書のとおり対応している。 | |
| 事業効果等 | 事業の取組 | 事業計画どりのサービスが提供されているか ・事業の計画、実施、成果は計画どおりか など | ・年度協定書 ・連絡調整会議資料 ・事業報告書 | A | 新型コロナウイルスの感染状況に留意しながら、ほぼ事業計画どりに運営できた。保育サービスのみ実施を見送った。 | S | 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、計画事業の一部中止もあったが、事業開催方法の検討を行い再開できたサービスや行事もあり成果があった。また、中央図書館年末開館試行(1日間)を実施し、利用者から好評を得た。 |
| | 利用の状況 | 事業計画どりの利用状況となっているか ・利用者は事業計画どおりか(環境の変化など外部要因を考慮) | ・年度協定書 ・連絡調整会議資料 ・事業報告書 | A | 新型コロナウイルスの感染拡大を避けるべく参加者の人数を絞ったり、使用できる館内施設の一部使用を取りやめた。 | A | 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、一部サービスや事業の中止や制限を行ったため、全て計画通りには行かなかったが、実施できた事業については利用があり、成果はあった。 |
| | 利用者意見の収集 | 利用者アンケート等を年1回以上実施し、利用者意見の収集をおこなっているか | ・利用者アンケート | A | 利用者アンケートは毎年実施し、公募で実施した利用者参加行事の多くについてもアンケートを実施し、報告している。 | A | 中央1/16、分館1/24～1/30に利用者アンケートを実施し、結果を公表している。 |
| | | 利用者の満足度を得られているか ・職員の接客対応、利用条件等は適切か | ・利用者アンケート | A | 利用者の満足度は95%を超えており、接客については好感を持って受け止められている。 | A | 利用者アンケートの「総合的な満足度」(満足およびやや満足の合計)が、中央94%、分館90～100%であった。 |
| | 利用者意見に対する対応 | 利用者アンケート等による意見に対し、適切に改善策が講じられているか | ・連絡調整会議資料 | A | 利用者からの意見については、対処方針も含めて全て公開しており、対処も迅速に遂行している。 | A | 利用者アンケートや常設の投書等の意見を活かし改善している。 |
| | 行政目的の達成 | 行政と連携を図り施設の目的を達成しているか ・施設の設置目的を達成しているか ・市および関係機関との連携が適切に行われているか など | ・連絡調整会議資料 | A | 市から依頼があった関連行事の図書展示や展示会については、担当部署との協力・連携に努めている。 | A | 市立図書館の設置目的に沿った運営を行っている。また、図書館以外の市の事業に協力している。(展示等) |
| | その他提案内容等 | 指定管理者選定時に提案のあった事項等について、提案とおりに実施できたか | ・連絡調整会議資料 | A | 概ね、提案事業については当初の予算の中では実施できている。 | A | 継続提案事業である託児サービスについては、新型コロナウイルス感染症対策のため実施できなかったが、選定時提案事項外の中央図書館年末開館試行に柔軟に対応して実施できた。 |
| 会計 | 処理 | 管理業務の会計に関する帳簿、書類の整備および保存は適正にされているか。 | ・ヒアリング | A | 管理業務の会計に関する帳簿や書類の整備や保存はもれなく実施している。 | A | 管理業務の会計に関する書類は、施設できるキャビネット内に整理し保存している。 |
| | 管理 | 現金等の管理は適正であるか。また、金庫等の鍵の管理は適正であるか。 | ・ヒアリング | A | 現金の管理については、鍵のかかる金庫に保管し、適正に管理している。 | A | 現金等については金庫内に保存し、カギについても適切に管理している。 |
| 収支状況 | 施設の収支決算状況 | 赤字決算に陥っていないか。 予算と決算に大きな相違があった場合はその相違の理由が的確である。 | ・収支報告(青梅市図書館の事業報告) | A | 赤字決算とはなっていない。 | A | 赤字ではないことを事業報告書から確認した。 |
| | 指定管理者の収支決算状況 | 経常利益率(経常利益÷売上高×100(当期経常増益額÷経常利益×100))がプラスになっており、赤字決算に陥っていない。 | ・第43期事業報告(図書館流通センター) | A | 経常利益率はプラスになっており、赤字決算とはなっていない。 | A | 経常利益率はプラスになっていることを財務諸表から確認した。 |
| | | 借入金に依存した資本構造ではなく、自己資本比率(自己資本(または正味財産)÷総資本×100)が30%以上となっている。 | ・第43期事業報告(図書館流通センター) | A | 自己資本比率は62%程度となっており、借入金に依存した資本構造となっている。 | A | 自己資本比率が30%以上であることを財務諸表から確認した。 |
| | | 流動比率(流動資産÷流動負債×100)が100%以上となっており、事業継続の安全性に不安がない。 | ・第43期事業報告(図書館流通センター) | A | 流動比率は164%程度となっており、健全な財政状況を維持している。 | A | 流動比率が100%以上であることを財務諸表から確認した。 |

1 指定管理者自己評価における評価理由、意見等

| 評点 | 数 | 記入欄 |
|----|----|---|
| S | 0 | <p>株式会社図書館流通センターが、青梅市図書館の指定管理業務を、令和3年度より7年度までの5年間を第二期として運用することとなった。令和3年度はその初年度となった。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う政府からの緊急事態宣言の発出に伴い、4月末から5月中旬までの2週間は休館を余儀なくされた。利用者を多く集めてきた講演会や朗読会が中止になったが、おはなし会や映画会は参加者の人数制限などの感染対策をしながら通年で実施した。</p> <p>新規で開始した事業としては、国立国会図書館デジタルコレクションの中の「歴史的音源サービス」を10月1日から開始した。</p> <p>図書館の利用実績としては、貸出者数、貸出冊数は前年からは14%程度増加したものの、コロナ禍前の令和元年度と比べると、貸出冊数は23%程度の減となった。従来は利用者が行事に参加することや、閲覧席を利用することによって、その相乗効果として貸し出しが増大していたことが伺える。</p> <p>令和3年度中はコロナ禍で実施可能な行事を厳選し、座席数を減らしたり、行事の参加人数を絞って実施した。予定していた講演会は絵本の原画展に変更して実施することで、多くの観覧者が来場されるなど、感染対策に配慮しながら来館者に楽しんでいただけるような事業を展開できた。</p> |
| A | 21 | |
| B | 0 | |
| C | 0 | |

2 市の評価、意見等

| 評点 | 数 | 記入欄 |
|----|----|--|
| S | 1 | <p>新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、連絡調整会議を毎月実施できた。また、日頃からコミュニケーションがとれ、日常の意思疎通および情報共有ができています。</p> <p>人材育成に努め、職員の研修や教育(新人研修、レファレンス研修、学校司書研修等)を行い、能力向上に努めている。</p> <p>提出文書等について、期限内に提出できている。なお、内容については更に正確性を求めたい。</p> <p>図書館資料の選書について選書会議を必ず実施し、資料収集基準等にもとづき管理している。</p> <p>年間を通し、新型コロナウイルス感染症のため事業が計画通りに実施できなかったが、感染状況を見ながら事業やサービスの再開を提案し、事業を実施して成果を得ている。また、指定管理者の年度計画では予定していなかった、市からの提案である中央図書館年末開館試行実施についても柔軟に対応し、開館できた。</p> |
| A | 20 | |
| B | 0 | |
| C | 0 | |